

「歴史まちづくり」促進のための 歴史的景観アセスメントの手法と活用

(研究期間：令和4年度～令和6年度)

社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室

研究官 (博士(世界遺産学)) 飛田 ちづる 室長 飯塚 康雄



(キーワード) 歴史的景観アセスメント、歴史的資源、歴史まちづくり法、景観法、文化財保護法

1. 研究の背景と目的

本研究は、平成20年施行の「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」に限らず、日本国内の文化財等を含む歴史的資源の保全と活用への取り組みを促進する技術資料案の作成を目指している。

国土交通省において地域の特徴を踏まえたまちづくりを促進するため、面的な範囲の環境を保全・活用する計画として平成16年施行の景観法に基づく景観計画が施行された。前出の歴史まちづくり法は、文化庁、農水省との三省共管であり、地域の特徴を捉えて保全と活用を促進する点が景観法と異なる。その他、文化財保護法下の重要伝統的建造物群保存地区制度、文化財保存活用地域計画や日本遺産など多様な制度等が現在では整備されている

他方、保全と活用の網のかけられていない歴史的資源等も散見され、地域の特徴を示す貴重な資源の保全と活用を進めるためには、自治体全域で有形、無形の資源を把握し、まちづくりとともに保全と活用の方法を周知、促進する必要がある。そのためには、まず、歴史的資源の所在を示し、主に歴史的資源の保全と活用を担う文化財担当部署と、自治体の都市整備を担う都市計画担当部署、その他観光や道路等、複数の部署と話し合える資料を作成し、検討方法を提示する必要がある。

2. 日本版HLCの考え方及び活用の検討

本研究を進めるにあたり、1990年代に英国の考古学者が考案した手法であるHLC(Historic Landscape Characterisation)を参照した。日本では鎌倉市等の事例を用いて紹介されている²⁾。本技術資料案では、

地図を用いて歴史的資源の所在を把握するという考え方と手法の骨子を用い、自治体全域の歴史的資源所在等を把握した上で、同地図を、将来に向けた保全と活用に活かすところまで示すことを目指した。また、用いる地図は、全国で整備されている地図に加え、近世以前の所謂絵図なども例として示し、多くの史料、資料を用いることで時間を遡れるよう示すものとした(日本版HLC)。

自治体での活用を想定し、自然条件や運用している歴史的資源の保全と活用に関する法令の多様な20の自治体に関し、予め日本版HLCを使い図-1のような図を作成した。同時に、地域全体の歴史を踏まえ、歴史的資源の保全と活用を行うまちづくりに関する施策の運用状況を地図に落とし込み、自治体へ施策運用の実態と課題を聞き取った。さらに、有識者への意見聴取を含めて日本版HLCの結果の活用の検討を行った。

3. 技術資料案の内容について

技術資料案は、自治体職員が歴史的資源を活かしたまちづくりに取り組む際に、庁内の部署間で話しあえる資料となる地図と、歴史まちづくり法及び関連法令の運用の考え方のガイドラインを示すものとした(図-2)。また、歴史的資源を活かしたまちづくりへの取り組み事例を、具体的な目的や、地域の背景を踏まえた取り組み方とともに紹介した。

4. 今後の「歴史まちづくり」のための活用

歴史的資源は、地域の特徴を示す観光資源、或いは、定住促進の魅力の一つとしての認識が高まっている。歴史的資源の適切な保全と活用を従来通り行

研究動向・成果

いながら、同時に多様な視点や手法で保全と活用に取り組むための基礎資料となれば幸いである。

注1) 宮脇勝「ランドスケープと都市デザイン」参照
注2) 国総研資料「歴史まちづくりの手引き」、都市局「歴史的風致維持向上計画」作成マニュアル等

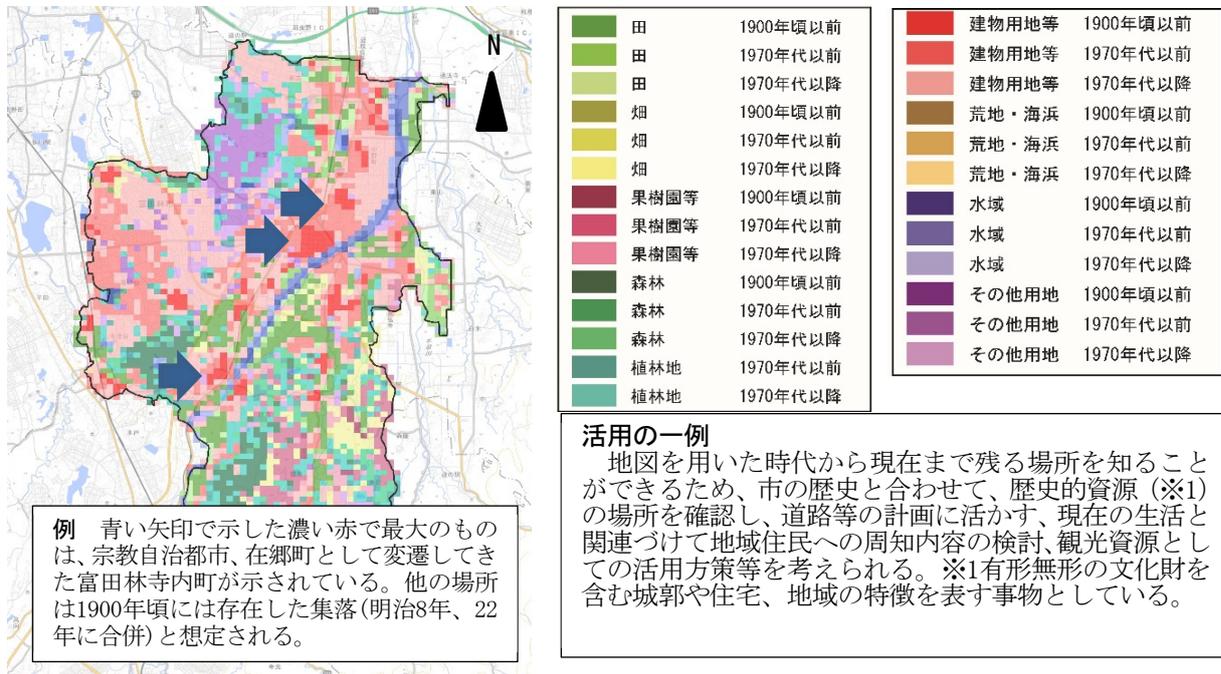


図-1 日本版HLCの結果例（大阪府富田市）

色の濃い場所が、長時間変化のない場所である。図は、全国に整備されている地図を用いているため、1900年頃までに設定されている。絵図などを用いて江戸以前まで遡ることで、歴史的資源のより包括的な保全・活用が検討できる。なお、実際は、資料調査や現地調査等に基づく裏づけが必要であり、あくまでも例示をするのみである。

1 地図の収集と整理

例 国土数値情報、Web-GIS、全国主要都市戦災概況図等。その他、都市構造の変遷、祭礼の範囲等（※）

自分の住む町の地図の収集と基本情報の整理

2 歴史的景観アセスメント -地図を重ね合わせる-

地図の重ね合わせの方法と運用している施策等の整理
(GISを使う場合、使わない場合)

変わらない場所の特定

運用としている施策の範囲や所在などの整理

3 歴史的景観アセスメント -地図を読み解き歴史的資源を活かす方法を考える-

歴史的資源の保全と活用に関連する施策を念頭に置いた歴史的景観アセスメントの読み解き方

4歴史的資源の保全と活用に関する取り組み事例

-庁内体制と制度、住民連携と普及啓発の視点から-

取り組むきっかけや具体の取り組み方(庁内の連携体制、住民との連携や意識醸成の方法、普及啓発の具体例)

歴史的資源を活かしたまちづくりに取り組むための考え方の提示

第3章を元に自治体の背景を踏まえた具体事例から取り組み方を考える。

図-2 技術資料案の構成案

(※) 自治体の文化財担当者には既知の情報であり、歴史分野の研究に於いては一般的な考え方であるとの指摘も受けるが、都市計画担当者に提示するために章を立て、歴史まちづくりの手引き等注2)を参照した。

3.

快適で安心な暮らしを支える研究